

2月16日 1966

科学者京都会議事務局報 No.1

(配布先: 継続委員, 事務局員)

2月10日 1~2時 京都で継続委員会が開かれた。  
出席者 湯川, 朝永, 坂田, 小林\*, 山田, 豊田 (小林氏は今年会代が  
京都, 名古屋周辺で開かれる予想で加わった)

議事録要約

1. 今年中にできれば3回会議をひらきたい。時期は6月中旬が望ましいが、  
やむをえなければ秋ということも考えられる。
2. 3月上旬までに(3月4日の共同利用研究所長会議前後)、日本の安全保障問題  
について、事務局で考えておいて、継続委員の間で検討し、実際に開催できるか  
どうかをきめ、その上で人選も確定する。
3. 場所は、山口は遠すぎるので、金沢又は名古屋附近で開催可能か否かを検討  
する。

なお前日の2月9日夜 事務局会議が開かれ次のような試案が作成され継続  
委員にそれぞれ配られていた。(出席者: 高木, 山田, 牧, 天現, 豊田, 小川, 正太郎  
小川は会代の始めの部分だけ出席)

- 1° 会代の主題: 第1, 2回の声明, 卒業生での公理系, 最近の情勢についての  
資料等を用いて、次の「定理」の多面的な証明を行う。  
「定理」 日本の核抑武装こそ日本の安全保障の道である。
- 2° 会代の成果の公表形式: 会代終了後現地で「コミコケ」とその中一つについて  
「アポール」を出す。これは1°の定理の証明と合致から平和運動に有効に寄与すると  
思われる。その時の発表論文は従来のように「世界」にのせる。
- 3° 開催地については金沢と山口の二つの候補地がある。参加者はできるだけ  
現地に近しい人から選ぶ。  
事務局で大学の学長, 学部長等, 学術会議会員等の名をあげたいろいろな  
議論がでたのでこゝには田舎す。  
正太郎, 丸山真男氏はその声明に参加されているので是非入れてもらう。又  
坂本義和氏は国際政治の視点から主題を論じてもらうために入れてもらうこと  
には意見の一致をみた。